

Lekker さんの手記

(駅長にきたメールをご本人の許可を得て手記にしました)

はじめまして。私は2002年3月から2003年3月までの約1年間、東京の八王子にある多摩教会に所属していました。摂理を離れて2年以上経ちますが、先日ふと、摂理のことが頭に浮かび、2ちゃんねるを見て、S-tation のことを知り、以前からあっこさんのお名前だけは耳にしていたこともあり、私が多摩で見えてきたものお知らせして何かのお役に立てていただければと思い、メールをさせていただこうと思いました。

私が伝道されたのは、私の大学の図書館で勉強していたときです。会話の切り出しは、「友達を訪ねに来ているのだけど、食堂はどこ？」というような感じだったと思います。少し話していくうちに、「英会話を毎週してるのだけど、他にもスポーツやったり、ごはんを一緒に作っているから、遊びにおいでよ」という話になり、携帯を交換して、その日は別れました。何度か、遊びにいった、ごはんを一緒に食べたりしていくうちに「この人の集まりは何なんだろう」と思うようになり、そのことについて「サークル？」と聞くと、「サークルではないけど、みんな Lekker のこと歓迎してるよ、会うの楽しみにしてるよ」というようなことを言われ、ふーん、と深く考えもせずに聞いていました。

2ちゃんねるでもS-tationでも皆さんが口をそろえて言うように、そこで出会った人たちの人の良さから私も惹かれていったんだと思います。御言葉へのあかしは、自分でも驚くばかりなのですが、どういうふうになされたのか覚えていなくて、私にあかした人にも、のちのち「私あかしされたんだよねえ？」と聞くほどの印象のないものでした。ただ、「今分からないことが全部分かるようになる」と言われたことだけ覚えていて、私の家庭では幼い頃から家庭内暴力があって、「なんでこの人が私の父親なんだろう、何のために生まれてきたんだろう、神様がいるならなんで私にこんなことするんだろう」という気持ちがずっとあり、そのことについても分かるようになるなら知りたいと思い聖書を開くようになりました。もちろん、バイブル・スタディーを終えたときに、私はそんな私の中の当初の目的から外れたところにいましたが、全く気づいていませんでしたし、自然にメンバーとしての摂理での生活に入っていました。

当時、八王子から1時間くらい遠いところに住んでおり、また家が厳しかったというもあり、週に3~4回通うのが精一杯で、それをメンバーは知っていたので、そこまで過度の要求はされず、摂理を出てから他の人の話を聞いていると私は摂理での時間を楽しく過ごしていたように思います。御言葉自体が自分の中に入っていたとは正直思えず、ただそこにいた人が好きだから、という理由で通っていたように思えます。バイブル・スタディーの最後のあたりにある堕落や創造目的などは、理解できなかったですし、

上の人に聞いて返ってきた答えも私の中で受け入れられるものではなく、これがバイブル・スタディーの御言葉の核心と言っているけど、本当にこれを受け入れられるようになるのかなと思っていました。でも、頭でなく霊で理解すると思っていたくらいなので、摂理ならではの「時がくるだろう」という適当な考えで、いつか分かると思いいなあくらいに捉えていました。そうして、勧誘された英会話を使命にして、S-tationの駅員さんのmarikさんと一緒にやっていました。

私が摂理を出るようになったきっかけを与えてくれたのもmarikさんで、川島先生を紹介してくれて、一緒に彼に会いにいったくれたのも彼女です。お忙しい時間を割いてくださり、親身に話を聞いてくださった川島先生に感謝しています。2ちゃんねるやS-tationを見ていて、自分がマインドコントロールされていたように感じる、という方が何人かいるようですが、私もそれに同感です。マインドコントロールという表現が適切かどうかは各人の判断にお任せしますが、人間の心理をうまく考えながら、いろいろなことがうまくシステムとして機能していると思います。水曜と日曜に礼拝があって御言葉、賛美歌やあかしを通して摂理や鄭明析のことを定期的に深く深く心に刻もうとさせるのは、人の興味や集中力は3日で途切れやすいという科学的な説に基づいているように思いますし、伝道した人も3日以内にもう1度こちらから連絡して出会ったときの感動をなくしてしまうことがないように、と教わりました。また、あなたに時がきて、御心があったから摂理に出会えた、あなたは他の人よりもより天に近いから先に救われるべきだといった選民思想的な話や、あなたにだけは特別に教える、使命を与える、といった優越感を与えるような、特に摂理に新しく入った人間が喜ぶような、仲間意識を高めるような話を私も疑いもせず受け入れ、その優越感に浸っていたと思います。

摂理を離れるようになった流れとしては、きっかけとしてmarikさんから、彼女が摂理を離れると決心したこと、私にも摂理にいることを考え直してみしてほしいといった内容のメールをもらい（そのとき私はイギリスに短期留学中でした）、彼女から言われるままに、ネットで摂理が世間からどのように言われているかを知り、帰国後はそのまま音信不通に・・・という経緯です。それまで、自分が所属していた団体の名前も知らずに、またその団体が統一教会系の集団で、鄭明析という教祖すら存在して（それまでは先生と呼ばれていた人の本名すら知りませんでした。何度聞いてもイニシャルのRしか教えてもらえず、しかもRってラビのRって・・・それが先生の名前と言われましたが・・・だから初めて知ったときはそんな～って感じでした）、何より、メンバーの話と彼らが実際にしていることのギャップがショックで、彼らに対する信頼感をなくしたのが離れようと思った一番の理由だと思います。イギリスに行く前から見ていた彼らの行いが納得できなかった部分も多くて、新入生を物のように扱うやりかたや、何かを競っているような体質、なにより、恐怖政治的な上下関係に辟易していた部分もあると思います。

当時の多摩教会のリーダーはMさんでサブはTさんという人です。私はMさんを尊敬できなかったし、いつも座っているだけの彼女（御言葉を伝える人だから、霊的な仕事に力を注ぐために、と言っている人もいましたが）を、みんなが「Mさん、Mさん」とちやほやしているのもよく理解できませんでした。のちのち、偶然出会ったメンバーと話をすることがあり、多摩が内輪もめの状態にあり、崩壊寸前までいくほどの状態だったことを知り、それもありえるだろうなというくらい、今思うと愛のうすい教会だったと思います（他の教会と比較したことがないので、あくまで私の主観的判断ですが）。そこにいた人が好きだったということを書いたので、矛盾があるように思われるかもしれませんが、少しでも復活しよう、前の自分よりもよくなろうという人たちを見ているのは気持ちのいいものでしたし、私の目から見たときに、復活しようという気持ちが見えにくかったのは上の人たちで、彼らは与えられた地位や摂理にいる年数にあぐらをかいているように見えました。より新しくデビューした人たちはもっと純粋に兄弟を神様を愛するという気持ちが強かったと思うし、一生懸命やっているところを見てほしい、評価してほしいという思いもあったと思います。デビューが近いメンバーや身近な人たちとの関係性が好きで、いい刺激をお互いに与え合いながらやっていたと思うし、そういうところが好きだったので、1年間いたんだと思います。

教祖のレイプの話の有無は、私は被害者ではないですし、そのことが実際に私がやめるきっかけになったとは思いません。でも、まだデビューして間もないときに、何かのきっかけから、ある幹部の一人が、「先生は日本人のためにお祈りしてくれているし、日本人をとて愛してくれているんだよ」という話をし出し、「先生はLekkerみたいな黒髪で長くきれいに髪の毛を手入れしている子、背の高い子が好きで・・・」と言った瞬間に、「別に変な意味はないんだけどね」と話を終わらせて、そのとき、私はレイプの話も教祖のことも全く知らなかったもので、大して気にもとめず、あとになってから彼の性的な好みを知り、私は背も高いし、髪の毛も黒くて長かったので、うっかり事情を知っているその人が口を滑らせてしまったのかもなと思いました。

よく他の教会の人などに紹介されるときに、見た目の話ばかりされていたのを覚えています。この子はLekkerっていう新入生で、と紹介されると、「かわいい子が入ったねー」とか、「背が高くていいね」など言われ、その頃20くらいだったので30くらいの人から見れば誰でも、かわいく見えるんだとは思いますが、でも、なんで中身を見たくないんだろう、御言葉を聞いているのに、そういう話ばかりされるもの、居心地のいいものではありませんでした。伝道するようになってからも、男の子に声をかけるように言われました。Lekkerについてくる男の子でも、教会にきたら他の男の子のメンバーにつながればいいから、みたいな話を露骨に言われるのも、自分を物のように扱われてい

る気がしていい気持ちはしませんでした。

彼らの言動の節々から、「今思えば・・・」という話はたくさんあるのですが、その頃は全く気付かず、盲目的に彼らを信じ、自分で考えるということをし、摂理についていってました。彼らを非難するつもりもないですし、彼らが摂理の中で幸せなら私はそれでいいと思います。今は摂理のときのいわゆるはかりごとと呼ばれるウソがなくなったのが本当に嬉しくて、今でも私は神様を信じているし、分からないときは聖書をラングダムに開いて聖句の中に答えを探そうとするときもあります。自分が神様を信じているということも出来るし、親や友人にウソをつかなくていいのも嬉しいです。摂理で得たものも多くあり、あの1年間も今の私をつくるために、私が今ここにあるための手段だったのかもしれないと思えるほどで、無駄な1年だったとは思っていません。摂理で出会い、私がやめるときに逆伝道した友達は今でも仲のよい友達の一人です。摂理よりもさらに広い世界で、自分の運命を生きることを許してもらいながら、進むべき道を用意してもらい、毎日をごさることに感謝でいっぱいです。摂理の外にも神様はいました。これからも人とつながって幸せでいたいし、愛と感謝と笑いを忘れずに生活していきたいです。これを読まれて、摂理での生活に疑問を感じてられる方、知り合いやお友達、ご家族などがメンバーとなってそのことで心を煩わされている方、また何か気になる点や確認したいこと等あれば、ご連絡いただければ、私にできることをしたいと思います。また、最後まで読んでくださった方へ、ありがとうございます。

(メールが手記になると決まってから書きました)

この手記を読まれた多摩の皆さんへ、

これを読まれると、誰がこの手記を駅長さんに宛てたのか、分かる方には分かると思います。2年以上前に、突然音信不通になり、何も言わずに摂理との関係を切った人間がなぜ今になって関わりだしたのか、と疑問に思われるかもしれません。この手記のきっかけは、手記の冒頭にも書いたように、駅長さんへのメールを手記としてアップさせてほしいという彼女からの返信に応える形で現れたものです。

多摩で過ごした摂理での1年間の経験や記憶は、これからも私の中から消えることはないと思います。そして、そこで出会った人たち、愛を持って接してくれた人たちには今でも本当に感謝しています。今でもみんな元気になってときどき思ったりもします。でも、摂理の真理は私にとって真理ではなかったし、手記にもあるように組織のあり方、特に上の人間の言動は見ていて、納得できない部分が多かったのも事実です。

この手記の元となったメールは、私の目に映った事実を一人でも多くの方に知ってもらうために、また私の多摩での経験を少しでも生かすために駅長さんに送らせていただきました。感謝していると言いながら、摂理での恩をあだで返すようなことをしているとか、サタンに主管されて天の歴史を邪魔するようなことをしているとか、いろいろと思われる

ことがあるかもしれません。でも、私との間にあった信頼関係を壊すような、心を痛めるような経験をさせたのはどちらが先か考えてみてください。私が離れてから、多摩でよく私のお世話をしてくれていたメンバーの一人から会って話したい、私が離れた理由をきちんと知りたいと連絡があり、そのときに、そのメンバーからリーダーのMさんが、鄭明晰が摂理の外でどのように扱われているのかを下の人間に話さなかったのは、そうすることは冷めたご飯を食べさせるようなもので、愛している人たちにわざわざまずいものを食べさせたくなかったから、と話していたと聞きました。そのとき、そのメンバーにも言いましたが、でも、それは上の人間が判断し決めるべきことではないし、それを親心、まして愛なんて呼ぶことはできないと思います。私も神様は人を通して感動や愛をその人に与えると思うし、困っている人を助けるときにも人を通して働きかけると思います。でも、みんながその人の救いのためにとまって摂理へ新入生を導くときに、それが神様からの使命なのか自分の願望なのか、いくらお祈りしていても、絶対的で客観的な判断は誰にもできないですね。そのときに、物事の片側（摂理の内側からの見方）だけしか示すことができないのは、そこに隠さなければならぬものがあるからではないでしょうか。バイブル・スタディーで、神様との約束を守れなかったアダムとイブがなぜ腰に衣類をまとうようになったのか、それはそこから罪が生まれたから隠すようになったんだとMさんから習いました。同じことを、摂理でもしていると思いませんか。隠さなければいけないようなことがあるから、下の人間に現実を言うことができないのではないのでしょうか。私の霊年齢が幼いから、摂理の御言葉がちゃんと入っていないから天の真理が分からないんだと思われるかもしれません。でも、神様の真理なら、もしそれが本当に真実なら、誰の目にも明らかであるべきものだと思うし、神様はそんなもったいぶって限られた人にだけ天の秘密を示すというようなことはしないと思います。自分がより天に近い存在だから、御心があるから、神様は他の人たちよりも先に私たちを呼ばれたんだってそう言われたときは私も嬉しかったし、今までのつらかったことを神様は全部見ていてくれて、それがやっと報われたんだって思いました。でも、それは見方を変えると神様から遠いところにいる人もいるということで、そういうふうに言われる人の立場に立って考えてみると、それが自分の救いだと思いたくなくなりました。誰かの不幸の上に自分の幸せを立てるようなことを神様は望まないと思うし、神様はその人がどこにいても平等な神様だと思います。外に出ているんな人に会って話をし、生きていて大変なことがあるのは「私だけ」じゃなくて、「私も」なんだってはっきり認識できたとき、同時に、これからは泣いたり、文句を言うのではなくてそういうつらかった経験や痛みを強さに変えて生きていくって自然に思えました。そういうふうに、自分で一つ一つ知るようにになっていくことが救いであり、復活なのではないかと今は思っています。どこにいるかが問題ではなくて、生きていることに感謝をしながら、きちんと自分と向き合えば自分がよりよくなるために何をしなければいけないのか教えてもらえますよ。私は鄭明晰を通さなくても、心を開いて、目の前に広がる世界を見るために、自分自身を、人を、また自然を受け入れるなら、摂理にいてもいな

くても神様はそれぞれの人生に必要で一番大切なことを一人一人に教えてくれると、摂理の外でもはっきりと実感させてもらえました。

これからも新入生を伝道するときに、その人の人生に踏み込むことの影響がどれだけ大きなものになるのか、よく考えてみてほしいと思います。その人にとってそうすることが救いだと自分が確信していたとしても、実際その人にとってはそれが結果的に新たな心の傷となる原因になってしまうかもしれないということを忘れないでほしいです。きっとみんな神様に相談しながら伝道していると思いますが、神様と話したら、次はその新入生ときちんと向かい合って話しをして、両側面からの真実をあかししてください。無理なお願いかもしれませんが、それがフェアな方法だと思います。誰のために伝道するのか、それが摂理という組織の拡大のためのものなのか、新入生という一人の人間の救いのためのものか考えてください。

摂理や多摩のメンバーに恨みや怒りという感情は全くありません。でも、私にとって摂理の真理は世界や宇宙の真理ではなかったし、一生をそこで過ごすことはできないと思いました。摂理でしか聞くことができないと言われた御言葉や箴言も精神世界系の本を読めば同じようなことがたくさん書いてあったし、何も知らなかった自分の無知がどんなに恐ろしいものか、身をもって経験できたと思います。ちょっと聖書をかじって、世界のこと、神様のことを知ったような気になっていた自分の浅はかさに気づくまでにとても時間がかかってしまいました。信仰は見えないものを信じることだ、今は分からなくてもついて行くことが知恵なんだ、と摂理にいたときに教わって、そのときはもっともらしい知恵の言葉のように聞こえましたが、今改めて考えてみるとよく意味が分からないし、摂理を離れてよかったと思っています。

少しでも摂理と関わりを持った人間として、私も自分にある責任を果たしたいという想いから、また駅長さんをはじめとする駅員さんたち、摂理の外にいるにもかかわらず動いて下さっているすべての方への敬意を表現したいという想いもあり、私にできること、つまり私が見たもの、経験したものをより多くの人へお伝えしたいと思いました。何も言わずに出てきたことは身勝手に申し訳なく思っていますが、言えば必ず引き止められるという恐れも私の中にあつたことを理解していただけると嬉しいです。また、この手記を読まれたときに誰かの気分を害し、不快に思わせてしまうことがないように、真意をお伝えすることができるように最善の注意を払ったつもりですが、同じものを見ていたとしても立場によって見え方が違うこと分かってほしいと思います。もし、摂理についてきちんと話がしたい、摂理で疑問を抱きながら走っていたり、理不尽で辛い思いをしているけど話し相手がいない、またこの手記について思われることなど、これを読んで私と話がしたいという感動が起こったら、是非ご連絡ください。逆伝道も批判もするつもりはありません。一人でも多くの方が、摂理と、自分と向き合うことができるように、小さなお手伝いができたらと願うだけです。